

研究部だより

令和5年
9月28日(木)発行
第4号
文責：加藤

「研究部だより」第4号では、中学部（自立活動）の授業実践をご紹介します。2学期早々、実践例を提供していただきありがとうございました。今後も、研究部だよりの参考資料とさせていただきたいと思いますので、ご協力をよろしくお願い致します。

ICT を活用した授業実践④中学部

中学部 2年1・2組 自立活動

題材名「居住地校交流の自己紹介シートをつくろう」

授業者 駒澤

対象生徒の様子

- ・タブレット端末を活用する際の基本的な操作ができる。
- ・音声入力、かな文字入力（かなキーボードを使用）ができる。
- ・他の学習で、Google Jamboard の使用経験がある。
- ・文字の読みや人前での発表に苦手さがあり、人前で発表や挨拶をするときには、緊張により、原稿の文字が読めなかったり、不安気な態度になったりする。

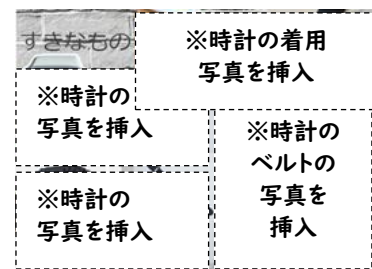
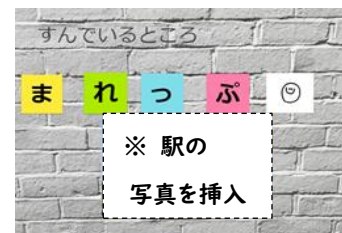
ICT 活用の意図

- ・本人が苦手とする「文字の読み」を強いる活動（例：事前に決めた内容を原稿にして読む等）を避け、得意な ICT 活用を生かしてシートを作ることで、スムーズに自己紹介を進められるようにする。
- ・「伝えたいこと」や「見せたい写真」を自分で決めることで、本人の思いを反映させた自己紹介をする。

ICT 活用の成果

- ・自分が話す内容を考えながら作ったシートを操作（スワイプ）しながら進めることで、居住地校交流では、言葉に詰まることはなく、一人で自己紹介を終えることができた。
- ・シートの作成をとおして、本人が好きな物の写真（ウェブ検索により自分で選定する）を使用したり、自分の学習の様子を紹介したりするなど、より分かりやすく、本人の思いに沿った内容を相手校の生徒に伝えることができた。

その他 使用したアプリ：Google Jamboard



生徒が作成した自己紹介シートの一部
（住んでいる所、好きな物）



研修報告

～高等部 中村先生～

7月27日、28日に手稲養護学校で行われた「第18回北海道肢体不自由教育専門性向上セミナー」に参加しました。今回は2日目の分科会で聞いた、稚内養護学校自立活動教諭の古川先生から「肢体不自由のある児童生徒の理解～からだの視点から～」の内容について報告します。研修資料は、中村が持っているのですが、興味のある方はお声かけください。

『体の軸』で見る！

肢体不自由のある子どもの姿勢を見るときポイントとして「体の軸」で見ることを挙げていました。頭部の軸・体幹の軸・骨盤の軸といった体軸が一本の柱になることで、「**支持点ができる、起き上がることができる**」「**目的に合わせて体を自由に動かすことができる**」「**姿勢を調整できる**」といった粗大運動が可能になると言っていました。また、演習として参加者の中から4人が選ばれ、参加者の前に並び「体の軸」を意識して姿勢を見ました。そうすると人によって肩の位置や顔の位置の違いや重心位置の違いなどに気付くことができました。

夏休みに行われた療育キャンプでは、普段関わっている生徒の体をPTに診てもらい、助言をいただくことができました。そのときに、PTから「下半身の筋肉が弱いので、下半身の筋肉を鍛えると良い」と言われました。その生徒の姿勢を今回の研修で学んだ「体の軸」で見ると、立っているときに膝関節や股関節が曲がっていることが分かりました。そして、曲がっている原因としてそれらの関節を伸ばす筋肉が弱いことが挙げられることから、先ほどのPTからの助言があったのだと気付きました。生徒が楽しさを感じながら下半身の筋肉を鍛える工夫を考えることに苦戦していますが、今回学んだことを活かしてこれからの指導につなげていきます。

～高等部 野村先生～

8月10日に北海道特別支援教育センターで行われた「特別支援学校 POWER UP セミナー ～同僚性を高め、協働的な組織運営の在り方～」に参加しました。特別支援教育センター教育課長 三瓶 聡様からの講話の内容について報告します。資料については野村、駒澤が持っていますので興味のある方はお知らせください。

子供たちの多様化

- ・特別支援学校、特別支援学級在籍者数の増加
- ・通常の学級にも特別な教育的支援が必要な児童生徒が在籍
- ・日本語指導を必要とする児童生徒が在籍
- ・18歳未満の子供の相対的貧困率の上昇
- ・生徒指導上の課題の増加



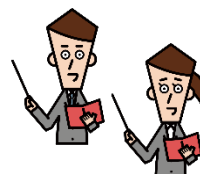
学校に求められていること

- ・全ての子供たちが安心して楽しく通える魅力ある環境であること
- ・これまで以上に、子供の発達や学習を取り巻く個別教育的ニーズ把握し、様々な課題を乗り越え、一人一人の可能性を伸ばしていくことが課題。



教員に求められていること

- ・一人一人の経験年数や専門性、目標等に応じ、個別最適に学びを進めていくこと。
- ・学校課題に対応した協働的な学びを組織全体で行い、成果を共有することにより、学び合う同僚性の下で、資質能力を高めていくこと。



まとめ

- ・学校教育や教職員を取り巻く状況が大きく変化する中、学校教育や教職員に求められていることの実現に向けて、協働的な学びを組織全体で行い、成果を共有し、学び合う同僚性の下で、資質能力を高めていくことが必要。
- ・学校の特色を創り上げ、力のある学校とするためには、同僚性を高めることが重要。そのキーパーソンは先生方一人一人です。

